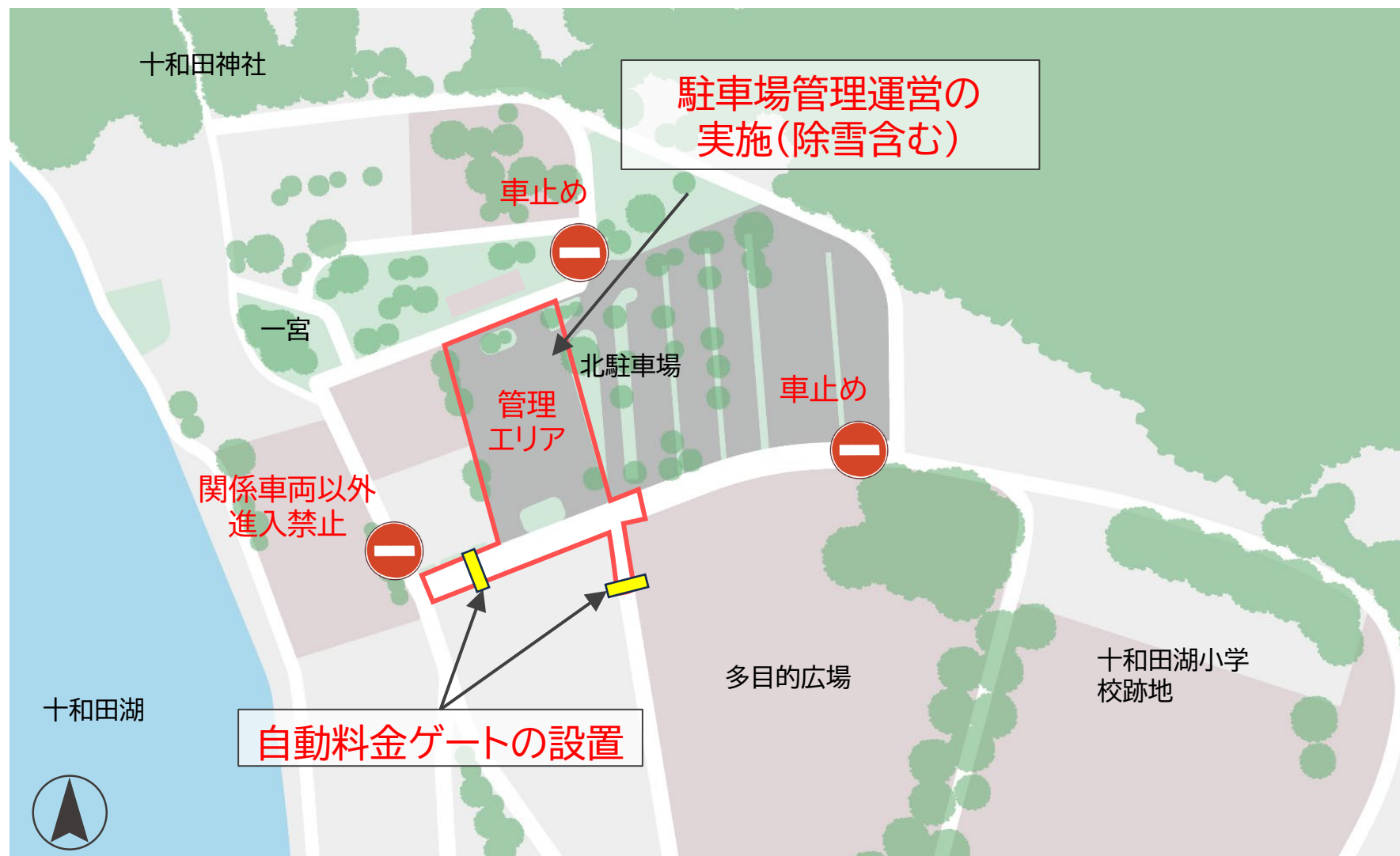


(令和7年度) 十和田八幡平国立公園休屋北駐車場の冬季運営に係る社会実験 結果概要

- ◆実施主体：環境省東北環境局
- ◆実験目的：休屋北駐車場における冬季運営の実現性確認
- ◆実験期間：令和7年12月6日(土)～令和8年3月31日(火) ※有料期間は12/6～2/28(1/1を除く)



(令和7年度) 十和田八幡平国立公園休屋北駐車場の冬季運営に係る社会実験 結果概要

冬季の駐車場利用実績

駐車台数合計: 5,824台 (バス309台、普通車5,515台)

- 12月 648台 (バス115台、普通車533台)
- 1月 1,427台 (バス89台、普通車1,338台) ※1月1日除く
- 2月 3,749台 (バス105台、普通車3,644台)

冬季の駐車場運営収支

- 駐車料金料金(収入):合計 3,463,550円
- 管理運営経費(支出):合計 3,774,100円
(ゲート設備の日常管理、料金管理、除雪・清掃管理、利用者対応等)

冬季の駐車場利用者の意向 (WEBアンケート結果)

期間:12/6~2/28 回答数:96(うち7が英語回答)

- 除雪等のための駐車場有料化に対する賛否
⇒賛成92%、賛成しない2%、わからない6%
- 駐車料金を何に使ってほしいか(複数回答)
⇒駐車場管理79%、地区の滞在環境向上70%、野生生物保全44%
- その他(自由回答)
⇒出入口の誘導不足の指摘、駐車料金の使途明確化・適正化の希望 等

冬季の駐車場管理に係る課題

- 普通車レーンへの誘導、出口方向への誘導が不十分
- コールセンター対応が一貫していないケースがある
- 停電時及び隣接建物からの落雪時などにゲート利用が困難
- ゲート前での路上駐車など料金を払わない不正車両への対応

まとめ

- 自動料金ゲートの運営:管理上の課題はあるものの、冬季の厳しい環境下でも設備の故障などではなく、技術的には運営可能。
- 駐車場管理運営に係る収支:人員配置等の見直しにより採算性の可能性はあるが、冬季以外も含めて更なる試行や検証が必要。
- 利用者の反応:冬季の駐車場運営(ゲート化・有料化)には理解が得られたが、駐車場料金の使途の明確化を求める意見が多かった。

⇒引き続き、今回確認された課題や収支の改善へ向けた対応とその検証等が必要